

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01559

研究課題名（和文）高齢化するアジア諸社会における世代・ジェンダー関係の多様性と変容

研究課題名（英文）Varieties and transformations of inter-generational and gender relations in Asian ageing societies

研究代表者

落合 恵美子 (Ochiai, Emiko)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：90194571

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,400,000円

研究成果の概要（和文）：5か国7地域で実施したアジア比較家族調査（CAFS）の結果をデータベース化して公開した。国内の研究分担者と国外の研究協力者およびその指導する学生・若手研究者によるそれらの分析成果を学術誌やCAFSワーキングペーパーとして出版した。全地域を比較する包括的な成果を日本語と英語の書籍として公表する準備も進めており、日本語版の書籍は京都大学学術出版会より刊行予定である。東南アジアと東アジアの世代意識とジェンダー意識の両面での違いの大きさ、ベトナムの南北の差、ジェンダー平等に近いと言われる東南アジアでの意識と行動のずれ、年齢や学歴による違いなどを特に重要な知見と考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでしばしば「アジア的」と一括りにされ、家族の福祉機能に依存した家族主義的制度設計を基本方針にしてきた諸社会であるが、これらの社会の家族の相互扶助のしかたは同じではなく、世代間関係とジェンダー関係の働き方、意識レベルと行動レベルのずれ、急速な変化と停滞など、さまざまな面での多様性と、複雑な変容を経験していることが明らかになった。しかし共通しているのは、人口学的条件の変化により、家族の相互扶助が難しくなっており、家族外からの支援が必要となっていることである。アジアの家族と社会は転換点にあるという認識が必要であろう。

研究成果の概要（英文）：The CAFS database that includes the results of our surveys conducted in 7 areas from 5 countries has been constructed and made public. The research results based on the CAFS database by our research team including young scholars and students from Japan and other countries are already published in academic journals and as CAFS working papers. A comprehensive result that compares 7 areas from 5 countries will be published as books both in English and Japanese. The Japanese book will be published from Kyoto University Press. Stark differences between East Asia and Southeast Asia in both generational and gender relationships, significant differences between north and south regions of Vietnam, gaps between attitudes and behaviors in Southeast Asian societies and gaps by age and educational background are among the most important findings.

研究分野：社会学

キーワード：家族 アジア 高齢化 世代間関係 ジェンダー

### 1. 研究開始当初の背景

世界一の高齢社会である日本を筆頭に、急速な人口高齢化に直面しているアジア諸社会では、この変化にいかに対応するのが喫緊の政策課題となっている。核心をなす「問い」は、「高齢化するアジア諸社会は欧米社会と同じ道をたどるのか/べきか」というものである。

アジア諸社会は「家族主義的」と言われる。北西欧諸国や日本の財政問題を見て、福祉国家化を進めることに慎重な国が多く、家族やコミュニティに福祉の中心的責任を負わせようとする。しかし急速に変化するアジア諸社会では、家族の形態も機能も変化している。家族の相互扶助機能に依存した家族主義的制度設計は今後も有効なのだろうか。そもそもアジアの家族はそれぞれの社会の親族システム、宗教規範、政治体制、経済発展度などにより多様である。これまでしばしば「アジア的」と一括りにされてきた諸社会の多様性に目を向け、高齢化するアジア諸社会において家族の果たす役割とその複雑な変容に影響する要因を解明する必要がある。

### 2. 研究の目的

急速な人口高齢化に直面しているアジア諸社会において、この地域でとりわけ重要な社会制度とされてきた家族が果たす役割に注目し、これまでしばしば「アジア的」と一括りにされてきた諸社会の多様性と、複雑な変容に影響する要因を解明して、変容するアジア家族を捉える枠組を構築することを目的とする。なかでも家族の相互扶助機能にとって重要な世代間関係とジェンダー関係の多様性と変容に焦点を当て、家族に依存した制度設計は今後も有効なのかを探りたい。

### 3. 研究の方法

複数の先行プロジェクトで10年の歳月をかけてアジアの研究者と共に東南・南・西アジア6カ国8地域を対象に実施した「アジア家族比較調査(CAFS)」データベースを使用し、共通の基準に基づいた正確なアジア家族の比較分析を行った。クリーニング作業を続けているカタルを除いた5ヶ国すなわちタイ、ベトナム、マレーシア、インド、トルコの7地域(インドとベトナムは対照的な2地域にて調査を実施)を含むデータベースを主に使用した。なお、CAFSSでは東アジア社会調査(EASS=East Asia Social Survey)の実施した家族調査EASS2006の質問紙をEASSチームの許可を得てわずかの変更を加えて使用したため、分析課題によっては東アジア4社会との比較分析も行った。

本研究のもうひとつの方法的特徴は、上記のアジア各国の代表的研究者(社会学者、人口学者等)との徹底した国際共同研究を行ったことである。これらの研究者とは調査実施の段階から共同研究を続けており、互いの信頼関係と協力関係をすでに確立していた。すなわち変数の性質や分析結果の解釈などについて、必要に応じて対象地域の研究者の意見を求めながら、分析を進めることができた。

各国の研究者は同僚や若手研究者・院生からなる国内チームを率いており、それらの若手研究者・院生によるデータの利用も促進し、若手の育成に努めた。若手・院生の分析結果は各国および日本の研究者の指導を経てワーキングペーパー等としてまとめた。

またデータベースを公開して、本プロジェクトのチーム以外の特に出発研究者の利用も促進した。

なお、研究分担者・研究協力者は他のデータを用いた関連テーマの研究も並行して行っているため、それらの分析結果の解釈を深めるために、CAFSSデータベースを用いた研究からの知見と洞察を積極的に活用した。

また、海外研究協力者の多くは研究代表者と共にアジア各国における家族と親密性研究の重要文献を収集して共有するプロジェクトを別途実施してきた。その成果を英語では *Asian Families and Intimacies* (Brill, 2021)、日本語では『リーディングスアジアの家族と親密圏』(有斐閣、2022)として刊行することができたので、CAFSSデータベースを用いた分析結果の解釈におおいに役立てた。

各国のチームを率いた海外研究協力者の方々は以下のとおり。

Eun Kisoo (ソウル大学教授)

Nguyen Huu Minh (ベトナム社会科学院家族ジェンダー研究所前所長)

Tran Thi Minh Thi (ベトナム社会科学院家族ジェンダー研究所所長)

Patcharawalai Wongboonsin (デリー大学教授)

Tan Jo-Pei (マンチェスターメトロポリタン大学)

Rahimah Ibrahim (プトラマレーシア大学副理事)

Rajni Parliwara (デリー大学教授)

Ismet Koc (ハジェッテベ大学教授)

### 4. 研究成果

(1) 5カ国7地域で実施したアジア比較家族調査(CAFS)の結果をデータベース化してCAFSSの

ウェブサイト (<https://sites.google.com/view/cafshomepage/>) より公開した。京都大学にてデータ利用の申請を受け付け、委員会の審査を経て、適切な利用に対して公開する CAFS データベースの公開体制を整備し、広報活動も行って、本研究グループ内外の国内外の研究者・院生等による利用を奨励した。

(2) 若手の CAFS データベース利用者の成果に対しては、研究分担者から丁寧な助言を行ない、若手の育成に努めた。

(3) 研究代表者・分担者と国外の研究協力者およびその指導する学生・若手研究者による CAFS データベースを用いた分析成果を学術誌や書籍として出版し、また CAFS ワーキングペーパーとして CAFS のウェブサイトより公開した。また関連テーマの研究にも CAFS データベースを用いた研究からの知見と洞察を活用した。

(4) 全地域を比較する包括的な成果を日本語と英語の書籍として公表する準備も進めている。日本語版の書籍は京都大学学術出版会より刊行予定であり、『アジア家族の多様性と変容：アジア家族比較調査 (CAFS) による 5 개국 7 地域の分析』を仮題としている。第 1 部は「アジア 5 개국 7 地域の家族の多様性と変容」と題し、変化する家族意識：結婚・離婚・同棲、結婚歴と配偶者満足度、子どもに対するジェンダー選好、ジェンダーイデオロギー、家族主義と家父長制、家族行動、世代間援助に関する意識、世代間援助に関する行動に関して、5 개국 7 地域の回答をジェンダーと世代に分けて集計した結果を示す。第 1 部は伊達平和と Lee Eun-kyung が中心になって執筆を終えている。第 2 部は個別テーマについてのさらに踏み込んだ分析を行う章からなり、タイ、ベトナム、マレーシアの研究協力者も執筆する。

(5) 全地域を比較する包括的な成果の英語版書籍は、査読を経て 2023 年に刊行することを目指している。

(6) ISA-RC06(国際社会学会家族社会学部会)の国際学会を、本研究の海外協力者である Nguyen Huu Minh ベトナム社会学会会長がホストとなって、2019 年にハノイのベトナム社会科学院にて開催した。本プロジェクトのセッションを設け、研究分担者の岩井、筒井と研究代表者の落合が渡航し、海外研究協力者の Eun Kisoo、Nguyen Huu Minh らと共に、研究成果を発表した。本プロジェクトの成果を海外の研究者に広くアピールする重要な機会となった。

(7) 本プロジェクトの成果を国際的に発信すべく、国際社会学会 (ISA) の World Congress (2023) に向けて、日本社会学会、ベトナム社会学会、家族社会学部会 (RC06) が合同で Integrative Session を申請し、採択された。

(8) 分析結果の詳細については、包括的成果の出版をひかえているため、具体的に記すことができないが、何点か述べておく。

- ・7 地域からの回答は多様であり、同じ項目 (結婚、ジェンダーなど) についても質問により回答のパターンが異なる。7 地域が全体としていくつかのグループに分けられて多くの質問に一貫した傾向を示すということはない。同じ国内でも地域によって傾向が異なる場合がある。

- ・年齢、学歴による差が大きい地域と小さい地域がある。変化の大きさを示すと考えられる。

- ・アジア地域では、社会保障の構築が遅れていることから、いまだに経済的な支援は子どもに期待されている。ただし、その支援の在り方にも、父系制の家社会的なベトナム北部 (義理の親への義務は女性は強く男性は弱い) 父系制だがすべての関係の親への援助規範が強いインド (男女とも実親にも義理の親にも援助する) そして双系制的で実親への援助規範が優位するクアラルンプールとバンコクといった多様性が見られる。

- ・ただしベトナムのハノイの親や義理の親と同居する家族においては家父長制的規範は実行に移されなかった。すなわちハノイの成人した子どもは、ジェンダーとは関係なく、老親に対するケア提供の実践でむしろ平等な負担を負う。規範と実践にずれが見られる。

- ・規範と実践のずれはジェンダー関係でも見られる。東南アジアでは全般的に実践の方が規範よりも平等的な傾向がある。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 落合恵美子	4. 巻 70
2. 論文標題 「アジア」と「日本」の再定義：隣人と共に考えるための知的基盤形成	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 200～221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4057/jsr.70.200	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 筒井 淳也	4. 巻 34
2. 論文標題 計量社会学と因果推論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 35～46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11218/ojjams.34.35	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 筒井淳也	4. 巻 35
2. 論文標題 共働き社会化がもたらす夫婦間の分配の変化：家族社会学の視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 家族＜社会と法＞	6. 最初と最後の頁 3～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 落合恵美子・鈴木七海	4. 巻 28
2. 論文標題 COVID-19緊急事態宣言下における在宅勤務の実態調査：家族およびジェンダーへの効果を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都社会学年報	6. 最初と最後の頁 1～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 落合恵美子	4. 巻 359
2. 論文標題 「少子化」と向き合うために知ってほしい四つのポイント	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journalism	6. 最初と最後の頁 34～43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中里英樹	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 育児休業制度の発展と母親の就業継続可能性の変化：雇用形態の違いに注目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 労働政策研究報告書 仕事と子どもの育成をめぐる格差問題	6. 最初と最後の頁 44～51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Windwehr, Jana, Ann-Zofie Duvander, Anne Lise Ellingsaeter, Guthny Bjoerk Eydal, Ziva Humer, and Hideki Nakazato	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 The Nordic Model of Father Quotas in Leave Policies: A Case of Policy Transfer?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Social Politics: International Studies in Gender	6. 最初と最後の頁 190～214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/sp/jxaa041	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fumiko Oshikawa, Sanjukta Chakravarty	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 The Pandemic and Disparities in School Education: Result from a Telephone Survey	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Review of Agrarian studies	6. 最初と最後の頁 80～93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 李ウエンウエン・筒井淳也	4. 巻 33(2)
2. 論文標題 現代中国都市家族のオトナ親子関係におけるジェンダー差	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 157 ~ 170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4234/jjoffamilysociology.33.157	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 稲葉昭英	4. 巻 33(2)
2. 論文標題 貧困と子どものメンタルヘルス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 144 ~ 156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4234/jjoffamilysociology.33.144	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 前田正子、中里英樹	4. 巻 23
2. 論文標題 出産後の女性のキャリア継続の諸要因 : 女性の就労環境、「保活」、夫の家事育児に注目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心の危機と臨床の知	6. 最初と最後の頁 288 ~ 299
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14990/00004115	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideki Nakazato, Gillian Whitehouse	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 Dimensions of Social Equality in Paid Parental Leave Policy Design: Comparing Australia and Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Social Inclusion	6. 最初と最後の頁 23 ~ 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17645/si.v9i2.3863	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 落合恵美子
2. 発表標題 長寿革命は社会に何を要請するのか」日中ジョイント・コンファレンス「高齢化する中日社会における家族の変化と社会的支援
3. 学会等名 中国社会科学院社会学研究所・日本研究所（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junya Tsutsui
2. 発表標題 An Analysis of Mate Selection in Asian Countries using the CAFS Data
3. 学会等名 International Sociological Association RC06 / Vietnam Sociological Association International Conference（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ochiai Emiko
2. 発表標題 Sharing Asian Intellectual Heritage: Construction of the Foundations for Asian Family Sociology
3. 学会等名 International Sociological Association RC06 / Vietnam Sociological Association International Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hachiro Iwai
2. 発表標題 Exploring Similarities and Differences in the Effects of Higher Education on Gender Role Attitudes and Practices in Asian Societies: Based on EASS 2006/16 and CAFS
3. 学会等名 International Sociological Association RC06 / Vietnam Sociological Association International Conference（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ki-Soo Eun
2. 発表標題 Family Values in Asia: Some Findings from Comparative Asian Family Survey (CAFS) Project
3. 学会等名 International Sociological Association RC06 / Vietnam Sociological Association International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nguyen Huu Minh and Dang Anh Tuyet
2. 発表標題 Son Preference in Vietnam and Preliminary Comparisons with EASS 2006 Findings
3. 学会等名 International Sociological Association RC06 / Vietnam Sociological Association International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 押川文子
2. 発表標題 インドデータを「非」統計的な読み方の可能性について
3. 学会等名 CAFS研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 筒井淳也・李ウエンウエン
2. 発表標題 中国現代都市家族の双系化傾向：CFPS2016による分析
3. 学会等名 CAFS研究会
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 中里英樹
2. 発表標題 CAFSデータを利用した子育て期の男女の仕事と生活の「実態」に関する研究の可能性：変数の活用方法の検討
3. 学会等名 CAFS研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊達平和
2. 発表標題 アジア7地域における性役割意識尺度の検討
3. 学会等名 CAFS研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 落合恵美子・郭雲蔚
2. 発表標題 ジェンダー意識と家事分担の地域間比較
3. 学会等名 CAFS研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上薫
2. 発表標題 アンカラ県の概要：トルコ調査データ分析の一助として
3. 学会等名 CAFS研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 押川文子
2. 発表標題 インドデータを使った分析の可能性
3. 学会等名 CAFS研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩井八郎
2. 発表標題 学歴差と年齢差の探索 - 分析の課題
3. 学会等名 CAFS研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲葉昭英
2. 発表標題 世代間関係の双系化
3. 学会等名 CAFS研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲葉昭英
2. 発表標題 貧困と子どものメンタルヘルス
3. 学会等名 第18回福祉社会学会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 筒井淳也
2. 発表標題 中国現代都市家族の双系化傾向：CFPS-2016による分析
3. 学会等名 第30回日本家族社会学会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Li Wenwen and Junya Tsutsui
2. 発表標題 Gender Differences in Intergenerational Relationships in Contemporary Urban China
3. 学会等名 The 13th Next-Generation Global Workshop (Online, Vietnam) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲葉昭英
2. 発表標題 離別母子世帯における非同居親と子の関係性が子に及ぼす効果：別居父と子の関係は子どもの自己肯定感に影響を与えるか？
3. 学会等名 第4回日本離婚・再婚家族と子ども研究学会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井八郎
2. 発表標題 ポスト家長制世界におけるアジアの家族変動と家族意識：東アジア社会調査（EASS）とアジア比較家族調査（CAFS）による計量社会学研究
3. 学会等名 日本教育学会近畿地区主催・講演会（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計30件

1. 著者名 大和礼子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 76～83
3. 書名 「高齢期のケア：理論から家族をとらえる(4)」西野理子・米村千代編著『よくわかる家族社会学』	

1. 著者名 Junya TSUTSUI	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 52
3. 書名 Work and Family in Japanese Society	

1. 著者名 筒井淳也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 84～91
3. 書名 「夫婦間の情緒的關係」西野理子・米村千代編著『よくわかる家族社会学』	

1. 著者名 筒井淳也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 181～198
3. 書名 「出産：子どもを持つことについての格差」小林盾・川端健嗣編『変貌する恋愛と結婚』	

1. 著者名 村上薫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 154 ~ 157
3. 書名 「トルコの家族法」長沢栄治監修、森田豊子・小野仁美編著『結婚と離婚』	

1. 著者名 伊達平和、高田聖治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学術図書出版社	5. 総ページ数 224
3. 書名 社会調査法	

1. 著者名 Emiko OCHIAI	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 448(1 ~ 35)
3. 書名 “The Logics of Gender Construction in Asian Modernities,” Jieyu Liu and Junko Yamashita eds., Routledge Handbook of East Asian Gender Studies	

1. 著者名 Emiko OCHIAI	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Seoul National University	5. 総ページ数 50
3. 書名 “Toward a Theory of Human Life in Mature Societies: European, American and East Asian Paths to Go Beyond the 20th Century Model of Social Reproduction,” <Asia and the World> Public Lecture Series, GSIS (Graduate School of International Studies)	

1. 著者名 筒井淳也	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 182(3~15)
3. 書名 「日本の雇用と女性の労働力参加：企業規模ごとの「働きやすさ」の分析」安藤史江編『変わろうとする組織・変わりゆく働く女性たち：学際的アプローチから見据える共幸の未来』	

1. 著者名 落合恵美子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 社会科学文献出版社	5. 総ページ数 348(3~21)
3. 書名 「高齢化社会と“長寿革命”」張季風・胡澎・吳小英編『少子高齢化社会と家庭：中日政策与实践比較』	

1. 著者名 Ochiai Emiko and Patricia Uberoi eds.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Sage	5. 総ページ数 1264
3. 書名 Asian Families and Intimacies, Volume I, Volume II, Volume III, Volume IV	

1. 著者名 Emiko Ochiai	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Sage	5. 総ページ数 181~189
3. 書名 “Introduction: Care and Familialism Reconsidered.” in Ochiai and Uberoi eds., Asian Families and Intimacies	

1. 著者名 村上薫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 448(305 ~ 325)
3. 書名 「名誉をよみかえる：イスタンブルの移住者社会における日常の暴力と抵抗」田中雅一・嶺崎寛子ほか編 『ジェンダー暴力の文化人類学：家族・国家・ディアスポラ社会』	

1. 著者名 Reiko Yamato	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 209
3. 書名 Intergenerational Relationships between Married Children and Their Parents in 21st Century Japan: How are Patrilineal Tradition and Marriage Changing?	

1. 著者名 大和礼子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 259(447 ~ 470)
3. 書名 「介護する意識とされる意識」平井晶子・落合恵美子・森本一彦編『リーディングス アジアの家族と親密圏 第2巻 結婚とケア』	

1. 著者名 岩間 暁子、大和 礼子、田間 泰子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 248(83 ~ 114, 175 ~ 205)
3. 書名 問いからはじめる家族社会学〔改訂版〕	

1. 著者名 大和礼子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 272(71～82)
3. 書名 「変貌する家族」 間淵領吾・酒井千絵・古川誠（編著）『基礎社会学（新訂第5版）』	

1. 著者名 押川文子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 263(3～6)
3. 書名 「監修のことば：多様性を越えて」『教育から見る南アジア社会：交錯する機会と苦悩』	

1. 著者名 押川文子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 263(71～78)
3. 書名 「街道沿いのカレッジ群：インド地方都市における教育産業」『教育から見る南アジア社会：交錯する機会と苦悩』	

1. 著者名 吉沢加奈子・押川文子(共訳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 456(24～43)
3. 書名 ウマ・チャクラヴァルティ「初期インドにおけるバラモンの家父長制を概念化する ジェンダー、カースト、階級、国家」森本一彦・平井晶子・落合恵美子編『リーディングス アジアの家族と親密圏 第1巻 家族イデオロギー』	



1. 著者名 長岡慶・押川文子(共訳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 456(170～197)
3. 書名 リーラ・ドゥベ「種子と大地 生物学的再生産と生産における性的関係をめぐる象徴性」森本一彦・平井晶子・落合恵美子編『リーディングス アジアの家族と親密圏 第1巻 家族イデオロギー』	

1. 著者名 濱谷真理子・押川文子(共訳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 504(273～294)
3. 書名 パトリシア・ウベロイ「あこがれの結婚式 結婚雑誌と「きちんとした結婚」的基準」平井晶子・落合恵美子・森本一彦編『リーディングス アジアの家族と親密圏 第2巻 結婚とケア』	

1. 著者名 濱谷真理子・押川文子(共訳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 504(401～425)
3. 書名 シルヴィア・ヴァトゥク「他者の負担になること インドの高齢者の依存不安」平井晶子・落合恵美子・森本一彦編『リーディングス アジアの家族と親密圏 第2巻 結婚とケア』	

1. 著者名 入江恵子・押川文子(共訳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 478(32～50)
3. 書名 クムクム・ロイ「カーマーストラを解読する」落合恵美子・平井晶子・森本一彦編『リーディングス アジアの家族と親密圏第3巻セクシャリティーとジェンダー』	

1. 著者名 水野英莉・押川文子(共訳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 478(165～177)
3. 書名 プラティクシャ・バクシ「レイプ・懲罰・国家：誰の身体に？」落合恵美子・平井晶子・森本一彦編『リーディングス アジアの家族と親密圏第3巻セクシャリティーとジェンダー』	

1. 著者名 入江恵子・山本耕平・押川文子(共訳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 478(22～243)
3. 書名 ヴィーナ・ダス「仮面と素顔：パンジャーブの親族関係についての考察」落合恵美子・平井晶子・森本一彦編『リーディングス アジアの家族と親密圏第3巻セクシャリティーとジェンダー』	

1. 著者名 中山美有紀・押川文子(共訳)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 478(244～259)
3. 書名 ブレイム・チョウドリー「「男性の概念」とは何か 名誉殺人における「名誉」」落合恵美子・平井晶子・森本一彦編『リーディングス アジアの家族と親密圏第3巻セクシャリティーとジェンダー』	

1. 著者名 西尾哲夫、東長靖、村上薫、相島葉月、青柳悦子、足立真理、新井和広、飯塚正人、池端路子、石山俊、井堂有子、稲葉奈々子、岩崎えり奈、鶴戸聡、遠藤仁、岡井宏文、岡戸真幸、小布施祈恵子、北澤義之 et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392(308～317)
3. 書名 中東・イスラーム世界への30の扉	

1. 著者名 長沢栄治、鳥山純子、村上薫、藤屋リカ、ダリラ・ゴドバン、伊東聡、南部真喜子、保井啓志、エイモン・クレイル、賀川恵理香、小栗宏太、小川杏子、細谷幸子et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 252(150～163)
3. 書名 フィールド経験からの語り	

1. 著者名 中里英樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 314(208～224)
3. 書名 「育児休業：男性の取得を促す制度の国際比較を中心に」落合恵美子編『どうする日本の家族政策』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩井 八郎  (Iwai Hachiro)  (80184852)	京都大学・教育学研究科・名誉教授   (14301)	
研究分担者	伊達 平和  (Date Heiwa)  (70772812)	滋賀大学・データサイエンス学部・准教授   (14201)	
研究分担者	筒井 淳也  (Tsutsui Junya)  (90321025)	立命館大学・産業社会学部・教授   (34315)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	稲葉 昭英  (Inaba Akihide)  (30213119)	慶應義塾大学・文学部（三田）・教授    (32612)	
研究分担者	中里 英樹  (Nakazato Hideki)  (10309031)	甲南大学・文学部・教授    (34506)	
研究分担者	大和 礼子  (Yamato Reiko)  (50240049)	関西大学・社会学部・教授    (34416)	
研究分担者	村上 薫  (Murakami Kaoru)  (00466062)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター ジェンダー・社会開発研究グループ・研究グループ長代理    (82512)	
研究分担者	押川 文子  (Oshikawa Fumiko)  (30280605)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・名誉教授    (14301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ウンギス  (Eun Kisoo)		
研究協力者	グエン・フー・ミン  (Nguyen Huu Minh)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	チャン・ティー・ミン・ティー  (Tran Thi Minh Thi)		
研究協力者	パチャラワライ・ウォンブーンシン  (Patcharawalai Wongboonsin)		
研究協力者	タン・ジョーペイ  (Tan Jo-Pei)		
研究協力者	ラヒマ・イブラヒム  (Rahimah Ibrahim)		
研究協力者	ラジニ・パーリワラ  (Rajni Parliwara)		
研究協力者	イズメット・コッチ  (Ismet Koc)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
International Sociological Association RC06 / Vietnam Sociological Association International Conference	2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

インド	中国研究所			
韓国	ソウル大学			
ベトナム	ベトナム社会科学院家族ジェンダー研究所			
タイ	タマサート大学			
フィリピン	フィリピン大学			
中国	復旦大学	上海社会科学院		
その他の国・地域	台湾中央研究院			